



「ネットトラブル防止教室」を行いました。(5, 6年生)

5月26日(金)6限目に、5, 6年生を対象に「ネットトラブル防止教室」を行いました。四日市西警察署から職員の方に来ていただき、約10分間の動画を2本使って「子どもたち同士のメールのやり取りに関するトラブル」「画像や動画をインターネット上に掲載する際の注意点や道徳的モラル」等について伝えていただきました。現在は、多くの小中学生が自分のスマートフォンを所持するような時代になりました。最近は情報機器機能が発達・多様化し、電話で会話をするというよりも、インターネット機能を使って動画を見たり、情報を調べたり、メール機能によって文字や絵スタンプでやりとりをしたり、といったことの方が多くなってきているように思います。



「メールは人の顔や声がないため、言葉の捉え方によっては違った伝わり方をしてトラブルにつながってしまう」ことや、「面白半分動画をSNS上に上げてしまうと、情報が拡散して取り返しのつかない事態にも発展してしまう」ことなど、危険なことにもつながることを伝えていただきました。



今回は、家庭教育講座(兼 子どもの未来を語る会)として、全保護者の皆様を対象に子どもたちと一緒に考えていただきました。意識を共有するためのいい機会となりました。

5, 6年生の子どもたちには、防止教室後、写真にあるような「家族で学ぼう! ネットの安全ルール(発行:公益財団法人全国防犯協会連合会)」という冊子が配付されています。ご家庭でも一読いただければ幸いです。1~4年生の保護者の皆様は、インターネットで冊子名を検索すると、カラー版で写真のような冊子の資料が出てきます。ぜひご覧いただき、子どもたちと考えていただければと思います。

上級生が下級生の面倒を見てくれています。

20分休みやお昼休みの長い休み時間には、好天の日だと多くの子どもたちが運動場へと出て、異学年で混じって遊んでいます。特にブランコは大人気で、低学年の子が乗って遊んでいると、高学年の子がゆずって後ろから押してあげていたりする場面が見られました。ジャングルジムの近くでは、高学年の子が鬼になり「だるまさんが転んだ」をして、低学年の子たちを上手に楽しませてくれています。竹馬をしたり、サッカーやドッジボールをしたり、鬼ごっこをしたり、とにかく学年関係なく、みんなが集まって遊んでいます。こんな微笑ましい光景があらこちらで見られ、私はうれしく思います。



公立の小学校は、同じ地域の異年齢の子どもたちが集まってくる場所です。異年齢の交流を通して育まれる「人と関わる喜び」は、子どもたち自らが獲得していくものです。楽しく遊び続けようとする、そこにはルールや役割分担が必要になります。上級生は、自らの体験に基づいてそれを自覚し、下級生は上級生の言動からそのことを学びます。経験の差や体力の差に応じて役割が生まれ、それを果たすことによって遊びをより充実したものにすることができ、なかまづくりが深まっていきます。休み時間に遊んでいる輪の中へ、子どもたち個々が自ら進んで参加し、遊びの体験の中から学び、成長に伴って自覚が生まれ、その役割を遂行することで更に自信が生まれるといった機会や場の積み重ねが、子どもたちを成長させていきます(国立教育政策研究所資料から一部抜粋して改訂)。

これからも、子どもたち同士が人と人との関わりを求め、楽しんでくれることを願っています。(追伸)

本校の子どもたちは、なぜか予鈴代わりの音楽が鳴ると突然ダッシュをして教室へと戻っていきます。「授業に間に合うように戻って準備をしなくては」といった気持ちの表れなのかもしれません。いい習慣として、これからもずっと続いてほしいと思います。

(文責 北住 昌文)

